

手賀沼ふれあい探鳥会

日時：2021年12月4日（土）9:15～11:45

主催：手賀沼流域フォーラム実行委員会・我孫子野鳥を守る会

※当探鳥会は我孫子野鳥を守る会の創立50周年記念事業を兼ねています。

開催趣旨

手賀沼流域フォーラム地域企画は、基本的にはその地域住民が対象です。今年は手賀沼流域の魅力伝える地域企画のうち1企画を、流域7市全体を対象を広げて実施しました。我孫子野鳥を守る会が長年続けている人気の高い企画「手賀沼親子ふれあい探鳥会」を親子に限定せず、幅広い年齢層を対象に募集しました。手賀沼周辺の探鳥の楽しさを知っていただくとともに、手賀沼流域市民同士の交流をはかり、次世代に手賀沼周辺の環境の大切さを体験してもらいます。

当日は朝から晴れて絶好の探鳥日和となりました。手賀沼周辺に冬鳥が訪れており、手賀の丘公園～手賀沼南岸～手賀の丘公園のコースを4班に分かれて探鳥しました。

事前に受付で検温と手指消毒を実施。コロナ対策のため、野鳥缶バッジ、野鳥カード、写真チェックリスト、ボールペン、手袋等も受付で前渡ししました。

1班・3班は左回り、2班・4班は右回りと密を避けて元気に出発しました。

(右図は左回りコースを紹介)

探鳥コース



探鳥の様子



①どんぐりの家「いざ、出発！」 ②じゃぶじゃぶ池「ほら！あそこ！」 ③桜の森「お花見にいいね～」

観察された野鳥について、我孫子野鳥を守る会会員がその特徴や生態などをその都度説明し、野鳥への親しみを深めていただきました。じゃぶじゃぶ池付近でメジロ、シジュウカラ、コゲラを発見。



撮影:間野吉幸さん



⑤染入落へ向かう田んぼ「見えた！ボクにも見えたよ！すごいね～」

手賀沼に向かう途中の田んぼではタヒバリ、ヒバリが頻繁に出現、セッカもスコープで観察でき、上空ではトビが巡回していました。



撮影:田島友昭さん



⑥手賀沼「ミサゴが《手賀沼中央地点》の看板の上に止まっているよ」

手賀沼では、マガモ、ヒドリガモ、カンムリカイツブリ、オオバン等の水鳥が観察でき、特に参加者の皆さんがスコープで見るミサゴの雄姿に感動していました。

⑩カワセミ池「見られるかな？」

最後にカワセミの池まで足を延ばし、運よくカワセミを見られた班もありました。



⑪どんぐりの家「到着！お疲れ様～」

どんぐりの家に戻って、本日観察した野鳥を皆さんで確認する「鳥合わせ」をし、名前を記録しました。4班合わせて野鳥42種が観察されました。

認めた鳥：オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、ホシハジロ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、バン、オオバン、ユリカモメ、ミサゴ、トビ、オオタカ、ノスリ、カワセミ、コゲラ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、セッカ、ムクドリ、ツグミ、ルリビタキ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、タヒバリ、カワラヒワ 計42種

参加者：一般参加41名（大人29名、幼児3名、小学生8名、中学生1名）、我孫子野鳥を守る会11名、手賀沼流域フォーラム実行委員会4名 計56名

- ・ 応募者は128名で募集定員の3倍以上。今回の応募媒体トップは流域7市広報紙の66%、チラシが22%。申込受付はホームページ経由で実施、QRコードの活用が効果を発揮しました。
- ・ 探鳥会に対する流域市民の皆さんの関心度の高さを知ることができました。
- ・ 探鳥会終了後も暫く歓談された市民が多く、手ごたえのある行事となりました。